

# 草原にひびくクルアーン

藤本透子  
民博 機関研究員

中央アジアの広大な草原に生きるカザフ人たちは、死者の霊魂のためによくクルアーン（コーラン）を朗唱する。彼らはスンナ派のイスラーム教徒として知られるが、中東とはまた異なる彼らのイスラームのあり方にわたしはずっと魅せられてきた。

旧ソ連の一部であったカザフスタンでは、反宗教的政策がとられたソビエト時代をへて、独立前後から宗教的かつ民族的な儀礼がとりわけはなやかにおこなわれるようになっていた。わたしの調査の目的は、現代における宗教復興のかたちを、草原の村から見つめることにあった。

## その年最初の馬乳酒

カザフスタン最大の都市アルマトウからステップを北へ約一〇〇〇キロ、バヴロダル州バヤナウル地区の人口約七〇〇〇人の村で、カザフ人たちの二年間ともに暮らした。彼らはかつて遊牧生活を送り、定住化した現在もその多くは牧畜にたずさわる。

長い冬が過ぎて、草原がいちめん若緑色にそ

わせに思われる。イスラームの教義で飲酒は禁じられているからだ。しかし、カザフ人にとって、クムズ（馬乳酒）はアラク（酒）とみなされていないことが次第にわかった。アラクは外来のウォッカやビールなどをさし、クルアーンが朗唱される場で口にされることはない。これに対して馬乳酒は草原の暮らしの恵みであり、イスラームに反するとはみなされない。

そこで次にうかがふ疑問は、クルアーンはなぜ死者の霊魂のために朗唱されたのかである。

## 死者が生者にもたらす豊かさ

もともとクルアーンに、死者の霊魂への崇敬は説かれていない。しかし、「死者が充ち足



ウマの搾乳は夏の仕事

まった六月のある日、その年最初のクムズ（馬乳酒）を飲みに来ないかと村の女性に誘われた。招待された家へ行くと五〜六人の村人が集まっており、馬乳酒が大きな茶碗になみなみと注がれた。乳白色のさらりとした液体に灰

りなければ、生者は豊かにならない」とカザフ人たちは語る。彼らによると、牧畜の恵みや子どもの成長といった暮らしの豊かさは、アルワクすなわち死者の霊魂のためにクルアーンを朗唱することでもたらされる。アルワクは目に見えないが「生きて」おり、金曜日ごとに自分の家を訪れて戸口に座る。子孫がクルアーンを朗唱すればアルワクは充ち足り、そうでなければ夢にあらわれて供養を促す。供養されればアルワクは子孫を守るが、供養しなければ「悪いことがおきる」という。

草原の村に暮らすうち、死者のためのクルアーン朗唱が生活に深く浸透し、葬儀や一年忌だけでなくじつに多くの祝いの場でおこなわれていることが明らかになった。それは例えば、新築祝い、大学卒業祝い、祖先の生誕一〇〇年祭、イスラームの犠牲祭や断食月、牧畜にかかわる祝いなどであり、その年最初の馬乳酒のもてなしは数多いクルアーン朗唱の機会のひとつだったのである。

## 草原の暮らしに根ざした宗教復興

カザフ人のあいだで、イスラーム教徒の義務とされる断食や一日五回の礼拝をおこなう人は増えつつあるが、全体から見ればなお少数にとどまる。一方、死者のためのクルアーン朗唱に参加したことのない人はきわめて稀である。カザフスタン独立後に宗教復興の中心となったのは、まさにこの死者の霊魂への崇敬を背景としたクルアーン朗唱であった。

色がかった脂肪分が点々と浮き、酸味とともに、いぶした木の香りがほのかにただよう。馬乳酒は、カザフ人たちの夏のごちそうだ。一日五〜六回搾乳し、木の桶に入れて数百回から一〇〇〇回ほど攪拌して発酵をうながす。栄養価が高く薬効もあるとされ、夏になると村人たちは家々を訪問し合って馬乳酒を飲む。数パーセントのアルコール分が含まれ、杯を重ねることにほろ酔い加減で明るい気持ちになる。

## クルアーン朗唱の風景

談笑しながら馬乳酒を味わった後、「その年最初の馬乳酒を飲んだときには、アルワク（死者の霊魂）のためにクルアーンを朗唱するものだよな？」と、最年長の男性が言ったことには驚いた。皆がうなずくと彼は、おもむろにクルアーンを朗唱し始めた。そして、「クルアーン朗唱という善行の報酬が、死者たちにもたらされるように」と述べ、祖先たちの名を列挙して祈ったのだった。

クルアーン朗唱と馬乳酒は、意外な組み合わせ



零下30度の冬もウマの放牧は続けられる



クルアーン朗唱の風景。断食月の日没後の食事にて

新設されたイスラーム大学やモスク付属の教育施設で学ぶ若者たちは、死者の霊魂よりアッラーへの信仰を強調する。しかし彼らも、死者のためのクルアーン朗唱を完全には否定せず、イスラームの教えに則した喜捨の一形態として認める場合が多い。

カザフ人たちのクルアーン朗唱の風景は、系譜意識や土地の記憶とも結びつきながら、彼らのアイデンティティのよりどころとなっている。政治面で「過激派」のみが話題になりがちな現代のイスラーム復興だが、草原の村のイスラームからは、より生活に根ざした宗教復興のかたちが見えてくる。